



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

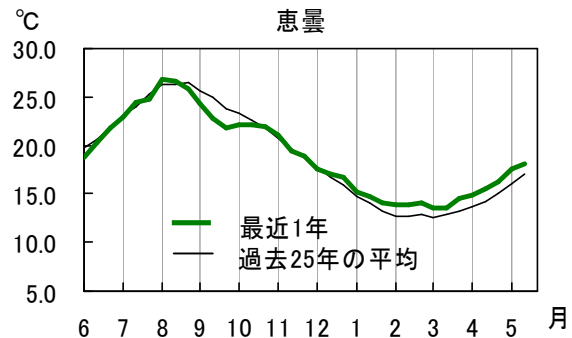
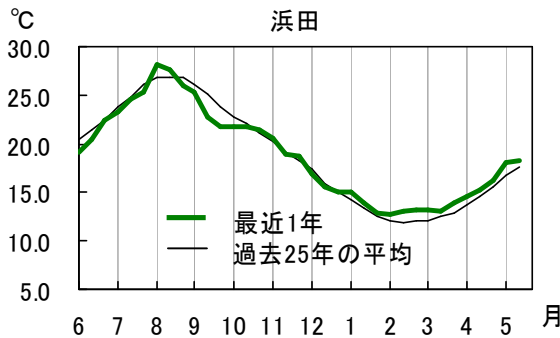
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《4-5月の海況》

4月	月平均	平年差	評価
浜田	15.4℃	+0.7℃	やや高め
恵曇	15.6℃	+1.3℃	かなり高め

沿岸定地水温は、4月は浜田では平年よりやや高め、恵曇では平年よりかなり高めとなりました。5月に入ってから浜田、恵曇とも平年より高めに推移しています。



《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田はマサバ主体の漁況で、前月と同様に記録的な不漁だった前年を上回ったものの、主力のマアジの不振により漁獲量、金額はそれぞれ平年の7割、8割に留まりました。浦郷は浜田とは逆にマアジの好漁により漁獲量、金額はそれぞれ平年の2.5倍、2.7倍となりました。西郷も浦郷と同様にマアジを主体に漁獲量、金額はそれぞれ平年の2.4倍、2.3倍と好調に推移しました。

【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではスルメイカ中心の漁況でしたが、漁場が隠岐島周辺および北九州沖に形成されたため漁獲量は平年の3割と低調に推移しました。西郷(属人5トン以上)も浜田港と同様にスルメイカ中心の漁況で、漁獲量は不漁であった前年を上回ったものの平年比では8割に留まりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では1ヶ統1航海あたり漁獲量は前年、平年(過去10年平均)を上回りました。漁獲の主体はムシガレイ、ソウハチ、アナゴ、アンコウでした。今期好調のソウハチは1ヶ統あたり漁獲量が前年の2倍、平年の1.5倍の漁獲がありました。ムシガレイも前年の1.5倍、平年の1.3倍の漁獲があり、好調に推移しました。

【小型底びき網漁業】

久手、和江両地区ともソウハチ、アンコウ、ムシガレイが主に漁獲されました。総漁獲量、1隻1航海あたり漁獲量とも前年ないし平年並みに推移しました。前月に続き好調のアンコウは両地区とも前年、平年を上回り、特に久手地区では前年の1.4倍、平年の1.9倍の漁獲がありました。

【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、ブリなどが漁獲され、漁獲量は平年の1.5倍となりました。隠岐地区ではマアジ、ブリが主体で平年の1.1倍の漁獲量となりました。石見地区でもブリ、マアジが主体で、平年並の漁獲量となりました。

【釣・縄】

石見地区ではアマダイ、メダイ、ブリなどを主体に、漁獲量は平年の9割でした。出雲地区ではこの時期の主力であるブリの漁獲が低調であったことから、漁獲量は平年の6割に留まりました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、スルメイカ主体に、漁獲量は平年並みでした。

【平成19年4月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大中型)	浜田	マサバ、マアジ、カタクチイワシ	378トン	364	69	17トン	264	121	○
	西郷	マアジ、カタクチイワシ	5,622トン	198	253	72トン	142	195	◎
	浦郷	マアジ、カタクチイワシ	3,310トン	186	247	50トン	129	216	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	38トン	69	29	232kg	96	68	▲
	西郷	スルメイカ、ケンサキイカ	37トン	376	80	139kg	137	24	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、ソウハチ、アナゴ、アンコウ	307トン	87	90	14トン	103	119	◎
小型 底びき網	久手	ソウハチ、アンコウ、ムシガレイ	174トン	106	100	583kg	97	100	○
	和江	ソウハチ、アンコウ、ムシガレイ	249トン	114	94	608kg	95	91	▲
定置網 (大型)	浜田	ブリ、マアジ	30トン	-	-	2163kg	-	-	-
	美保関	マアジ、ブリ	95トン	75	134	664kg	75	91	○
	浦郷	ブリ、マアジ	18トン	159	92	587kg	175	80	○
釣り・縄	仁摩	メダイ	8トン	50	62	24kg	51	73	▲
	大社	ブリ	18トン	36	28	23kg	40	40	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、スルメイカ、メダイ	16トン	304	141	34kg	141	44	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下